



日本医療マネジメント学会 News Letter

第80号

2020年9月1日発行

発行 特定非営利活動法人
日本医療マネジメント学会事務局
〒860-0806 熊本市中央区花畑町1-1
大樹生命熊本ビル3階
TEL 096-359-9099 FAX 096-359-1606
E-mail jhm@space.ocn.ne.jp
URL <http://jhm.umin.jp/>

第22回日本医療マネジメント学会学術総会開催のお知らせ(第6報)

病院ビッグデータ革命～データ活用による「医療の質」「医療・介護連携」の飛躍(Leap)を求めて～



第22回日本医療マネジメント学会学術総会
会長 三木恒治

(社会福祉法人恩賜財団済生会
滋賀県病院院長)

第22回日本医療マネジメント
学会学術総会のお知らせも最後の
第6報となりました。新型コロナ

ウイルス(COVID-19)の感染症拡大によって、海外では、医療体制の崩壊危機に陥っている国もございます。日本国内においては、現時点では感染拡大は抑制され、第2波、第3波の到来が懸念されておりますが、他の学会の開催動向を参考にし、10月にはなんとか学術総会は開催可能かと考えております。

本学術総会は当初、6月26日(金)・27日(土)で開催の予定でしたが、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染症拡大防止の観点から、本年10月6日(火)・7日(水)に、延期開催することとなりました。なお、京都市での開催は、第13回学術総会以来、9年ぶりとなります。

医療マネジメントにあたっては、情報の管理・分析、その有効活用が大きな課題となっています。なかでも公的医療ビッグデータの活用が重要なポイントになってきました。情報を制するものはマネジメントを制する、その典型例がDPCの開発と厚労省のNational Database(NDB)などの情報公開による分析と活用であると思われまます。DPCデータの活用の実例としては、クリティカルパスの評価や診療実績、Quality Indicatorのベンチマーク比較、評価等々が挙げられます。

今、日本の医療は厚労省の掛け声のもと、地域医療構想の実現と地域包括ケアシステムの構築に邁進しています。地域医療構想では病床の機能分化・連携の掛け声のもとに病床機能報告制度が始まり、2025年に向けてビッグデータに基づいた予測必要病床数が提示されています。すなわち過剰な急性期病床、足りない回復

期病床が指摘され、病院は今、大再編時代を迎えています。その大再編時代のカギを握るのは、データ活用といえます。

一方、質の高い医療の提供は、我々医療者の使命です。超高齢社会の進展で、医療のみならず、質の高い医療・介護を実現するため、医療・介護連携も極めて重要な使命になってきました。こうした使命を果たすためには、今まで以上に健全経営の実践は欠かせません。そのためにはデータの分析が必要であり、今まさに大きな飛躍(Leap)をもたらす「病院ビッグデータ革命」の必要性に迫られているといえるのではないのでしょうか。

今回担当させていただく第22回日本医療マネジメント学会学術総会で、「病院ビッグデータ革命」の必要性を高らかに掲げ、医療の質向上を目指す学会会員の皆様方とこのテーマについて広く、深く考えたい。そこからあらたな医療マネジメントの方向性が垣間見えてくるのではないかと思ひ、今回のメインテーマを「病院ビッグデータ革命～データ活用による「医療の質」「医療・介護連携」の飛躍(Leap)を求めて～」とさせていただきます。

プログラムにつきましては、日本医学会会長 門田守人先生に「医学・医療の向かう道」、自治医科大学学長 永井良三先生には「情報化時代の医療マネジメント」等の特別講演、定番のクリティカルパス「医療の質向上を目指してークリティカルパスの基本を学ぼうー」、「(医療安全)組織としての分析の考え方」、「チーム医療を支える医師事務作業補助者の生涯教育について考える」、「クリティカルパスを活用するために」、「働き方改革におけるタスク・シフティングの重要性」、「医療者のためのワークライフバランス～働き方改革を考える～」、「特定看護師の今後の展開」、「医療におけるリーダーシップ」、「2020年診療報酬改定を振り返って～働き方改革と地域連携」などの講演、シンポジウムを企画しております。